

119番通報の多様化に関する検討会（第4回）議事概要

1. 検討会の概要

- (1) 日時：平成28年3月17日（木） 10:00～11:10
- (2) 場所：ミツヤ虎の門ビル6階 A会議室
- (3) 出席者：加納座長、石井座長代理、浅利委員、早坂委員、小川委員、倉野委員、酒井委員、高松委員（代理立石氏）、前田委員（代理関根氏）、消防庁（事務局）

2. 議事概要

(1) 第3回検討会議事概要（案）

事務局から資料1について説明があり、特段の意見なく、承認された。

(2) 中間報告書（案）の概要について

(3) 中間報告書（案）について

事務局から資料2及び資料3について説明があった。

(主な質疑応答等)

【座長】 中間報告に記載されている方向性で今後も検討していくか、委員の意見を伺いたい。

【委員】 記載されている方向性で継続検討を希望する。更にブラッシュアップしていただきたい。また、埼玉での実証実験に参加した模擬通報者からは、事前登録をする際、自身の端末に様々な情報を保存しておくことが心配なため、出来るだけ消防本部で登録したいという意見がでた。

【座長】 更なるブラッシュアップを期待とのご意見があったが、利用者の慣れも非常に大きな要素である。そのため、事前説明や通報の練習が重要である。また、Net119システムを利用するにあたり、GPS機能をオンにしておかないと、精度の高い位置情報に基づく管轄消防本部への振り分け、および救急車ないし消防車の出動も行えないことから、今後も徹底する必要がある。また、事前登録を自身の端末だけでなく、消防本部でした方が安心だという指摘は重要なものとする。来年度、事前登録の方法および登録情報の蓄積場所について検討する場合に参考とさせて頂く。

【委員】 これまでの検討結果を踏まえた素晴らしいものだと考えている。実証実験に参加した模擬通報者からも、実用でも使える仕組みだという評価だった。また、障がいの度合いは人によって異なるため、相手の声は聞こえないが、自身は話すことが出来るという場合もある。そのような方々も実際に使える仕組みとなれば良いと考えている。

【座長】 中途失聴者からの要望では、消防本部指令員からはテキストで情報伝達してもらい、自身は音声で情報伝達したいという話があるが、現状、なかなか技術的に難しい。また中途失聴者の個人にもよるが、電話で声が明瞭に聞き取りにくい方がいらっしゃるのも事実である。中長期的な課題の1つだろう。

【委員】 画面仕様は、当初案より格段に分かりやすくなった。一日も早く全国の消防本部で実働できればと期待する。課題はたくさんあるが、継続検討していただきたい。

- 【委員】 かなり研ぎ澄まされたシステムになっていると感じる。本運用が始まってから仕様を変えることは難しいため、検討すべき課題について、引き続き検討が必要と思う。
- 【座長】 委員からは継続検討が必要との意見であった。事務局の意見はどうか。
- 【事務局】 皆様のご意見のとおり、継続して検討する必要があると考えている。
- 【座長代理】 中間報告の「3-3-3 Net119システムのサーバ要件」に記載されている「サービス提供団体」は、新しく民間団体をつくるという意味か。
- 【事務局】 新たにつくる場合もあれば、既存の方がやる場合もある。特定のどこかを指しているものではない。
- 【座長代理】 消防本部とNet119システム間で使用する回線としては、インターネット回線が望ましいとなっているが、セキュリティの部分は考慮されているか。
- 【事務局】 ここはあくまで回線の種別についてのみの記載である。セキュリティについては、電気通信事業における個人情報保護に関するガイドラインを遵守する中で確保されるものと考えている。
- 【座長】 インターネット回線を用いるものの、既存の指令台とは接続せず、消防本部におかれる専用端末（PC）でやりとりを行うことで、万一PCが乗っ取られた場合でも、被害の影響を少なくしている。また、PCのセキュリティ対策をしっかりとすれば、実用上は十分使えるという判断をしたということ。
- 【座長代理】 現状の記載ぶりだと、外国人に利用者を拡大することで、いたずら／なりすましが増えるといった表現となっているが、外国人利用者に限らず起きることなので、表現を変えた方が良い。
- 【事務局】 了。
- 【委員】 あまり現実的な話ではないかもしれないが、日本のNet119システム利用者が海外で本システムを利用した場合でも、現地の最寄りの消防本部へ通報されるとなると良いのではないか。
- 【座長】 ご指摘のように、国内外問わず、本システムを利用すれば、最寄りの消防本部へ通報されるということが一番良い。国際標準化機関に対して提案したことも過去にあるが、当時は先進的すぎて他の国は積極的ではなかった。訪日した外国人がNet119を便利だと考えれば、帰国後自国でも同じようなシステムが使えることを要求するであろうから、他国でも機運が盛り上がるであろう。今後、訪日外国人への対応を考えるには、将来の国際標準化も視野に入れて検討することが重要である。
- 【委員】 聴覚・言語機能障がい者の緊急通報手段として、FAX、メール、Web通報と色々と手段が増えているが、これらとNet119の関係について、どう考えるか。
- 【座長】 既存の音声によらない通報手段だと、全国どこにいても最初に登録した消防本部へ通報される仕組みとなっている。このため、全国どこにいても今いる場所を管轄する消防本部へ通報されるようにする必要がある。これを実現するために、Net119システムとして技術的条件を定めるべく本検討会が始まったと認識している。
- 【事務局】 座長のご意見のとおり、消防庁としてもパケット通信を利用した全国どこにいても最寄りの消防本部へ通報される仕組みとするため、本検討会でご議論いただいているところ。

- 【座長】 全国どこにいても最寄りの消防本部へ通報される仕組みを構築するためには、複数の会社がNet119システムの製造を担当する場合、より詳細に情報の符号化方式を定め、標準化する必要がある。日本では、情報通信ネットワークに係る標準化を行う機関として一般社団法人情報通信技術委員会（TTC）がある。今回の中間報告にもとづき、より詳細な技術検討を行った上で、TTCがその標準仕様を策定していただくのが良いと思うが、いかがか。
- 【TTC】 外国出張中のため今日はやむを得ず欠席した前田委員（TTC代表理事専務理事）より、「消防庁及び各企業からの協力を得つつ、TTCとして標準仕様の策定を進めていきたいと考えている」との伝言をもらっているので、この場でお伝えする。
- 【座長】 了。本件について何か意見はあるか。
- 【座長】 無いようなので、TTC に詳細な標準仕様の策定をお願いすることとしたい。

以上